

2024年度 環境経営レポート

2024年4月～2025年3月



作成日：2025年4月28日

株式会社UACJ金属加工

1. 組織の概要

1-1. 事業所名及び代表者名

株式会社UACJ金属加工 成田工場
工場長 鬼澤義弘

1-2. 所在地

千葉県成田市新泉11-2

1-3. 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 業務グループ グループ長 脇田薫
EA21事務局 技術グループ
連絡先 TEL 0476-36-1155 FAX 0476-36-1157

1-4. 事業内容

金属機械加工部品の製造

1-5. 事業の規模

2024年4月～2025年3月

活動規模	単位	成田工場
主要製品生産量	t	15,367
売上高	百万円	3,830
従業員	人	128
建築延べ床面積	m ²	12,222

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

2-1. 認証・登録範囲

認証・登録事業者名: 株式会社UACJ金属加工 成田工場
対象事業所所在地: 千葉県成田市新泉11-2
事業活動内容: 金属機械加工部品の製造
2020年4月よりサイト認証。

2-2. レポートの対象期間

2024年4月～2025年3月
発行日: 2025年4月28日

2-3. 他工場のISO14001、エコアクション21認証登録状況

- (1) ISO14001: 恵那工場、滋賀工場
(2) エコアクション21: 広島工場、仙台工場

2-4. 本社、支店

認証取得の検討中。

株式会社UACJ金属加工 成田工場

経営理念

お客様の満足と信頼を得る製品とサービスの提供に努め、
堅実・健全な事業発展を通じて、広く社会に貢献します。

環境経営方針

ユニットバス壁パネル・アルミ加工品の提供を通じ、
社会に貢献することを目指しています。

1. 二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・水使用量・化学物質使用量及び
経営における課題とチャンスを踏まえたテーマについて環境経営目標・
環境経営計画を定め、継続的に環境保全活動の質の向上を図ります。
2. 顧客要求の変化に応える為、省資源・省エネを推進します。
3. 環境関連の法律、規制、協定などを遵守します。

制定日 2005年3月1日
改定日 2024年4月1日

工場長 鬼澤 義弘

4. 環境経営目標の実績

項目	単位	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 目標	2024年度 実績
二酸化炭素排出量 ※6	kg-CO ₂ /百万円 t-CO ₂ /年	105.83 (448)	104.62 (420)	103.57	100.27 (438)
廃棄物排出量 (最終処分(生産時 の不良削減))※6	kg/百万円 t/年	10.91 (46)	5.34 (21)	5.29	5.22 (23)
壁パネル不良率	%	0.167	0.205	0.185	0.201
アルミ加工品 不良件数	件	70 ※2	33	30	39
水使用量 ※6	L/百万円 m ³ /年	345 1,463	402 1,613	(402) (1,613)	450 1,963
VOC使用量 ※3 ※4 ※6	g/百万円 kg/年	390 1,239	32 127	(32) (127)	0 0

※1. 電力の二酸化炭素排出係数 0.500 kg-CO₂/kWh

※2. 異常件数を含む。

※3. エコシンナー・AP7(実際はVOC対象外で可)を除く。

※4. 化学物質使用量に関し、主に生産と関連しない床面塗料の成分となる為、目標値は管理対象外とする。(2024年度から実施)

※5. 顧客要求に従ってアルミ素材を活かし軽量化した製品を製作している。顧客である自動車・鉄道メーカーの燃費・エネルギー効率向上に、生産活動を通じた安定供給により間接的に貢献している。(上記理由より目標設定は困難)

※6. ()は参考値。

5. 環境経営計画の取組結果とその評価

環境経営計画		結果	評価
二酸化炭素排出量削減			
数値目標	103.57	100.27	[kg-CO ₂ /百万円]
・夏季冷房用電力の削減		×	冷房用器具の台数の増加、冷房機器の使用頻度の増加により電力使用量が増加した。
・冬季暖房用燃料の削減		×	暖房用器具の台数が増加し、暖房機器の使用頻度の増加により電力使用量が増加した。
・LED照明への置換え		○	2024年8月に第2工場水銀灯のLED化取得と除却18個を実施。また、2024年11・12月に事務所及び共用場所の蛍光灯のLED化により省エネ効果を実現した。
総評	当年度は、猛暑の影響で夏季冷房用電力が増えたが、LED照明等ハード対策の実施により一定の効果がありトータルでは微減となった。また、売上高の増加に比し稼働時間が少ない品種構成が起因した。		
廃棄物排出量削減			
数値目標	5.29	5.22	[kg/百万円]
・パネル製品不良率の低減 月間目標 0.185 %以下		×	工程内不良を目標値通り削減できなかった。不良の原因は、ライン加工での不良増加(設備起因とメンテ不足)。目標が厳し過ぎて未達。2025年度は目標値を見直す。
・アルミ加工品不良件数の削減 累積目標 30 件以下		×	アルミ加工品不良件数が若干増えた。不良の原因は、久々受注の展示台に関し手順書の不在と熟練者の退職による引継ぎの不足。
総評	ゴミの分別化・リサイクル化の推進により産廃量を削減できた。パネル製品はイオナイザ利用他打痕不良対策を継続のこと。またアルミ加工品は後進が分かりやすい手順書の作成に継続して努めること。		
水使用量の適正管理			
前年度値	402	450	[L/百万円]
・節水呼びかけ		—	猛暑期間の長期化に伴い、水使用量・スプリンクラー散水量が増加した。
総評	主に生産と関連しない猛暑によるスプリンクラー使用増等環境改善の理由の為増加。2025年度はスプリンクラー廃止により減少する予定。		
VOC使用量の適正管理			
前年度値	32	0	[g/百万円]
・VOC使用量調査		—	来客に伴う床面塗装の機会・量が減少した。
総評	主に生産と関連しない床面塗料の成分となる為、目標値は管理対象外の適正管理とする。		

※電力の二酸化炭素排出係数 0.500 kg-CO₂/kWh

6. 次年度の環境経営目標及び環境活動計画

6-1. 環境経営目標

項目	単位		2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	目標	前年度 実績比99%	前年度 実績比99%	前年度 実績比99%
		実績	100.27		
廃棄物排出量 (最終処分(生産時 の不良削減))	kg/百万円	目標	前年度 実績比99%	前年度 実績比99%	前年度 実績比99%
		実績	5.22		
壁パネル不良率	%	目標	前年度 実績比90%	前年度 実績比90%	前年度 実績比90%
		実績	0.202		
アルミ加工品 不良件数	件	目標	前年度 実績比90%	前年度 実績比90%	前年度 実績比90%
		実績	39		
水使用量 ※2 ※5	L/百万円	目標	前年度値	前年度値	前年度値
		実績	450		
VOC使用量 ※3 ※5	g/百万円	目標	前年度値	前年度値	前年度値
		実績	0		

※1. 対象期間は4月から翌年3月までとする。

※2. 水使用量に関し、主に生産と関連しない猛暑によるスプリンクラー使用増の為、節水の努力は行うが目標管理でなく適正管理とする。

※3. 化学物質使用量に関し、主に生産と関連しない床面塗料の成分となる為、目標管理ではなく適正管理とする。

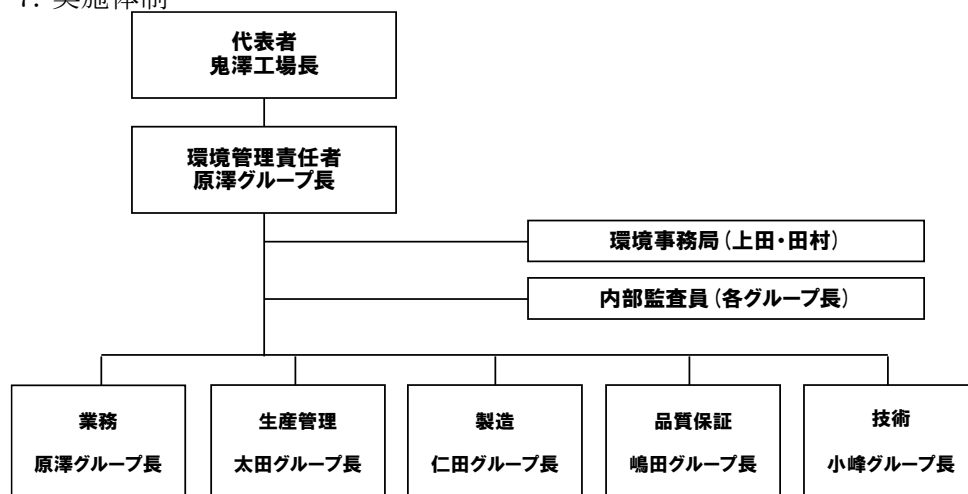
※4. 顧客要求に従ってアルミ素材を活かし軽量化した製品を製作している。顧客である自動車・鉄道メーカーの燃費・エネルギー効率向上に、生産活動を通じた安定供給により間接的に貢献している。(上記理由より目標設定は困難)

※5. ()は参考値。

6-2. 2024年度～2026年度環境経営計画

項目	取組み
二酸化炭素排出量	・夏季冷房用電力の削減 ・冬季暖房用燃料の削減 ・太陽光発電導入 ・LED照明への置換え ・節電の徹底
廃棄物排出量	・パネル製品工程内不良削減 ・石膏ボードの濡れ防止 ・廃プラの分別の徹底
パネル製品不良率	・パネル製品不良率の低減 ・石膏ボード破損防止 ・資材提供元の管理強化
アルミ加工品不良件数	・アルミ加工品不良件数の削減 ・工程内検査の強化 ・作業標準書の整備
水使用量	・節水呼びかけ ・水漏れ点検の実施 ・スプリンクラー撤去
化学物質使用量	・VOC使用量調査

7. 実施体制



8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
騒音規制法、振動規制法、公害防止組織法、消防法、フロン排出抑制法、労働安全衛生法、自動車NOx・PM法	ベンダー、プレス、シャーリング、コンプレッサー、公用車、灯油、有機溶剤、塗料、空調機器、木材パレット
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物

環境法規、条例については、関連会社から最新の情報入手に努め、常に該当項目の有無について社内スタッフがチェックし違反のないことを確認しております。

また過去3年間、外部、及び関係機関から指摘事項および訴訟などありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

①2024年度総括

- ・作業環境改善の全社的な要請の流れもあり、夏季冷房用電力の増加に繋がった。
- ・VOCに関しては、重要来客が安定し、現場の床面塗装による塗料の使用量が減り例年に比べ大きく減少した。
- ・猛暑期間の長期化に伴い、水使用量・スプリンクラーの散水量・冷風扇への水供給量が増加した。
- ・産廃の量に関しては、工場全体の分別化によるリサイクル化が進展し、ある程度の削減を達成する事ができた。

②2025年度目標及び取組(又は環境活動計画)

UACJ環境目標に従い、エネルギー原単位2024年度比1%減を目標として活動を進める。

<重点項目>

1. 太陽光発電導入に伴い、CO2の削減・水/電気使用量の減少(スプリンクラー散水の廃止・遮熱効果有)を同時的に目指す。
2. 石膏ボードのリサイクル化率促進及び産廃広域認定制度活用により、産廃費用のより一層の削減を目指す。